

◆ 第2回 養老町立小学校再編準備委員会 要点記録

令和8年5月21日(木) 午後7時～午後8時50分

養老町役場 4階大会議室

■出席者：委員10名、事務局6名、コンサル2名

	<p>○町民憲章朗唱</p> <p>○開会</p> <p>○教育長あいさつ</p>
	<p>○報告事項</p> <p>(1) 前回会議のふりかえり</p> <p><事務局より説明></p>
	<p>○報告事項</p> <p>(2) 統合校(案)の決定について</p> <p><事務局より説明></p>
A 委員	<p>養老小学校と笠郷小学校にはそれぞれ特徴があるため、それら特徴を活かしなが ら考えられるのではないかと思った。空調が設置されていない教室がある等の課 題もあり、他に例えば、現在は収納として使用されている空き教室にこどもが入 ると収納スペースがなくなってしまう。どのように収納スペースを確保するかにつ いても検討が必要だと感じた。</p> <p>また、スクールバスについても、敷地内での確保が全く不可能という状況ではな いと考えられることから、専門部会において検討を進めることで、多様なアイデアが 出され、議論が深まっていくものと感じた。</p>
	<p>○報告事項</p> <p>(3) 専門部会の検討状況について</p> <p><専門部会長より説明></p>
総務部会 早崎委員	<p>4月15日に総務部会を開催した。</p> <p>部会の開催にあたっては、事前に宿題として資料を読んできてもらい、当日、頭に 残っていることを2つずつ発言してもらった。</p> <p>その中で、気になった意見として次のような発言があった。「統合となって1つの 学校に集約された場合、これまで校長に依頼すれば当たり前できていたことが 容易にできなくなる。やれる範囲で継続していくしかないが、地区としての連絡網 などちょっとした組織を作っておかないと、地域行事が成り立たなくなるのでは ないかといった懸念がある。」</p> <p>総務部会の部会員は区長会長が多く、区長会長からは、地域として連絡網を整理し た方が良くはないかと意見をいただいた。これに対し、どのような組織なのか ということについて議論が進んだ。</p> <p>結論として、学校と地域の間には1つの情報の中継局を作っておかなければ、情報が 正しく伝わっていない。情報を集約して、それを学校から住民、住民から学校につ</p>

	<p>なげていく中継局をつくってはどうかという方向性で意見がまとまった。</p> <p>また、部会には保護者代表も参加していたが、仮に中継局がいくつかできたとして、横につながる機能を持たせてほしいとの意見があった。現状は、困りごとがあった際に、学校に聞き行く必要があるとのことであった。私も公民館長として同様の経験をしている。隣地区の公民館長に聞こうにもなかなか聞きにくい状況がある。</p> <p>保護者からはこどもの意見を聞いてみてはどうかというご意見があった。これに対し、区長会長からは運動会を開催する際には、必ず中学校が意見を述べに来るとの事例が紹介され、こうしたことが一つのあるべき姿だと思った。</p> <p>公民館も含めて様々な施設について見直し、統合を図るということは正しいと思うが、地域そのものは存続することから、中継局をしっかりとつくってはどうかということが、第1回総務部会の結論だった。</p> <p>次回会議は、機能する中継局の構築に向けて、人員、規模、内容等の何から見直すか。どのような体制にするか、年齢層・住んでいる場所等、様々な層が絡み合った中継局でなければ、本当に機能するのかという課題がある。次回はここから議論を始める。中継局は、発信、翻訳の機能を備え、かつ中間の立場を心構えとする。統廃合後、様々な情報が行き交うことが想定されるが、こうした仕組みは学校にとっても有益だと思う。</p>
<p>教育部会 若山委員</p>	<p>4月22日に教育部会を開催した。</p> <p>当初は明確な道筋がない中で話を進めていった。目指す学校像やこども像、教育課程の編成といった具体的な内容については、その時のこどもたちの実態も踏まえた上で、そのときの校長、教職員、こどもたち、地域の意見を聞く必要がある。理念的な部分は非常に重要である一方、現時点で教育部会では話し合えない部分があるという認識を共有した。今後、開校時期が近づき、校長等の体制が整った段階で、教育部会としても関与しながら、教育課程の編成を含めた具体的検討を進めていくこととなる。そのため、今回の部会では目指す学校像や教育目標については話し合わなかった。</p> <p>議題としては、各学校に学校文化があり、こどもたちは学校で生活する上で当たり前のようにそれらに親しんでいる。統廃合後においても、そういった学校文化、特色ある教育課程が存続するのか。それぞれ学校文化をこどもたちが誇りに思いながら活動しているなかで、どのように融合していくかが一番の課題であり、教育部会でまず考えるべき事項であると共有した。</p> <p>特色ある教育活動を進めるのは、総合的な学習の時間がメインとなる。その編成が重要であると整理した。教育部会としては総務部会とも連携しながらまずは、総合的な学習の時間の編成をつくりあげていくことが最も重要であるとの方向性でまとまった。</p> <p>また、こどもたちは他の地域の文化を知らない中で、こどもたちの意見を聞くとい</p>

	<p>ってもなかなか分からないところがある。こどもたちが知るべき情報を適切に伝えていくことが重要である。</p> <p>こども意見交換会の実施が予定されているので、その進め方が重要である、教育部会としてどのように関わっていくか検討が必要である。</p> <p>ここからは私見であるが、現在も学校間交流は実施されているものの、保護者やこどもたちにとって最も重要なのは不安の解消である。</p> <p>例えば、園小交流においては、養老小学校では、養老こども園・保育園と年に7～8回の交流を実施している。こども同士の融和が図られて、小学校入学時のいわゆる小1ギャップの解消につながっている。このような交流を、令和12年度の統合に向けてどのように展開させていくか。</p> <p>保護者の不安を払拭していくためにも、学校間交流は必要であり、今後どのように充実させていくかについて教育委員会で検討すべきである。その検討に、教育部会も関与できると良い。</p> <p>一方で、具体的にはやれることからやっっていこうということで、次回は各学校の行事を持ち寄りながら、行事調整を行うと同時に、学級をどのようにレイアウトするか、余った教室をどのように活用するかということについて検討を進める予定である。次回の教育部会は6月に開催する。</p>
	<p>○協議事項</p> <p>(1) レイアウトに関する専門部会での協議内容の確認</p> <p><事務局より説明></p>
<p>委員長</p>	<p>ただ今の説明から、何かご意見等ございますか。</p>
<p>B 委員</p>	<p>総務部会でも話したが、養老町では地域とともにある学校としてコミュニティスクールが実施されており、学校を核とした地域づくりもあわせて考える必要があると考えている。そのため、学校の中に地域の方が集えるような部屋や機能があることが望ましい。</p> <p>現在、養老町では学校の近くに公民館が配置され、そこで社会教育活動が展開されているが、学校再編により、近くに学校がなくなる場合、これまで行っていた活動が物理的にできなくなる可能性がある。地域の文化があり、これまでの活動をどこでするかとなったときには、学校を開放するべきだと思う。地域の方が学校に入っただいて、こどもと触れ合えるような特色ある教育活動を展開できたら素敵だと思う。実際に、公民館と学校がつながっていて自由に行き来できる学校事例を見て良いなと思った。学校と地域が共有できるスペースが学校内にできると良いと思う。</p>
<p>C 委員</p>	<p>率直な感想だが、増築の必要はないと認識した。増築が必要であれば費用がかかるが、リフォームで済むのであれば、新しいことに費用をかけられるとわくわくした。ワークスペースやこどもが集える場所があると良いと思う。こどものニーズは聞いていただきたい。</p>

	<p>統合校という表現について、今回は吸収合併ではなく、新しい学校が2校できるという認識である。このまま進むと養老小学校と笠郷小学校に吸収されるというニュアンスになることが懸念される。仮でも良いので、新しい学校名をつけて、新設校ができるという意識付けを今からしていくことが必要ではないかと思った。</p>
D 委員	<p>H 委員のご意見に対して、総務部会が新しい校名について検討するセッションである。すぐ決まるとは思わないが、次回部会で議題としたいと思う。</p> <p>資料で提示されたレイアウト(案)はあくまでも現状校舎でも諸室が収まるという確認を行ったということが良いか。</p>
E 委員	<p>あるものを活かしながら、アイデアを出してわくわくする学校をつくるということについては賛成である。学校を預かる身としては、学校名や教育目標がはっきりしてくるとイメージしやすい。どこかの部局がたたき台をつくりながら、目に見える形にしていくことが重要だと思った。</p>
F 委員	<p>1つは、教育部会に宿題をいただいたが、教室等のレイアウトについて我々で検討を進める必要がある。必要な教室を確保した上で、その他にどのような教室を求めていくか。理想を追い求めると、教室が足りなくなるため、現実問題としてどのようにしていくのが最も望ましいのか考えていく必要があると思っている。</p> <p>また、学校ビジョンを考える上では、養老町は人権教育を推進している地域なので、そこに触れていく必要があると思う。</p> <p>教育課程を考える際に、学校の特色を生かす必要があるが、ふるさと養老をどうしていくのか。良さを知ったり、体験したり、未来に残すものは何か。各学校の伝統文化を踏まえながら、どうすることが望ましいか。ただ、こどもたちが文化を知らずに進まないだろうということで、CCNetさんに各学校の紹介動画をつくってもらうなど、各関係者をお願いしながら、こどもに伝えるということも必要だと思った。</p> <p>教育部会だけが先行していくことのないように、教育委員会と密接な関係をつくりながら進めていく必要がある。教頭会や教務主任委員会も興味津々であり、細かいこともつなぎながら進めていく必要がある。</p>
G 委員	<p>広幡地区は地域の方が学校に協力的で地域と一緒にあって取り組んでいる活動が非常に多い。学校が統合した後に地域の方が学校に来れるスペースも重要だが、広い校区になったときに、地域に出ていくという考え方も必要だと思う。現在、広幡地区は非常に人数が少ないが、他の地区のこどもたちも一緒にあって地域の活動に参加することも考えていければ良い。</p> <p>こども園の今後の在り方にも関わるが、広幡小学校では1年生が5人という状況である。人数が少ない学校から、統合後は1クラス20～30人規模になる。少人数から大人数に入っていくときに、いかにスムーズに入っていけるようにするか。少人数指導も含めて、何らかの形で、人数が少ない地区のこどももうまく溶け込めるように考えていけると良い。</p>

H 委員	<p>各学校特色があり、住民の願いとしては、その特色を残していただきたい。各学校の特色がなくなると、地域や子どもたちとのつながりがなくなる。</p> <p>60年前に養老小学校に統合したが、子どもたちが溶け込むのは早いと思う。子どもは力があり、友達をつくるのが早い。素晴らしい学校になると思う。</p> <p>学校名を考えていただいて、みんなが思い出をつくれる学校にしていきたい。</p> <p>施設通学部会については、学校の候補地が決まっていなかったため、まだ開催していない。PTA地域部会等と協力しながら、スクールバスの運行経路も含めて協議していきたい。</p>
委員長	<p>特別支援学級については、余裕をもった推計をしているため、よほど超えることはないとは思いつつ、特別支援学級は年々増えている状況でもあるため、再度確かめた方が良いでしょう。</p>
A 委員	<p>すべての部会に共通して、留守家庭児童教室の在り方について早めに検討すべきである。学校に設置するのであれば、その分だけ学校で使える教室数が減る。収納スペースや教職員の作業場を確保できるかが課題となる。</p> <p>一方で、留守家庭児童教室を学校に設置しないということになれば、下校のスクールバスをどうするかが課題となる。例えば、公民館を乗降場とした場合、当然地域の方が使われている時間帯であることから、地域の方の移動とスクールバスの侵入が干渉しない方法はあるか。乗降場を公民館としないのであれば、どこが可能か。結局は学校しかないとなると、保護者の送迎が集中するため、安全性の確保や、学校によっては今までよりも遠くまで迎えに行かなければならないという点でPTA部会からの意見も必要になってくる。</p> <p>各部会で、留守家庭児童教室をどのように運用するのが養老町にとって望ましいか、早めに検討していただいた方が良いでしょう。</p>
I 委員	<p>12月に住民説明会を行うということで、1つの区切りとして今年の検討のゴールとなると思うが、どのような事項を住民説明会に持っていくのか。ゴールを早く示していただくことによって、逆算して検討を進めることができる。</p>
	<p>○協議事項</p> <p>(2) こども意見交換会について</p> <p><事務局より説明></p>
委員長	<p>ただ今の説明から、何かご意見等ございますか。</p>
C 委員	<p>現在、PTA地域部会では、今後のPTAの在り方を考えていく中で、保護者と先生を対象にアンケートを実施している。加えて、こどものニーズを取り入れる必要があると思っている。</p> <p>グループワークで60分とられているが、例えば、「地域・保護者とやってみたい活動はあるか。」といったニーズを引き出してもらえると非常に助かる。</p>
	<p>○その他</p> <p>○閉会</p>

